



文化博物館だより 第199号

2007年12月16日

みなさん、こんにちは。年の瀬の慌しさは、文博にも到来中。新春展にむけた準備が進んでいます。そんな中、今月もボランティアさんによる「はた織体験」がありました。

カラフル、さおり織

はた織体験が、12日（水）行われました。大島紬は糸の調子が悪いので、今回はさおり織がメインの体験です。訪れたのは二組でしたが、「さおり織ではどんなものが作れるの？」と質問し、とても興味津々な様子。

まず、それぞれ好きな横糸を選び、それをシャトルにセットして上下の縦糸の間をくぐらせます。足を踏みかえトントンと糸を寄せると、やっと一段織りあがります。細い絹糸をつかう大島紬などとは違って、さおり織は糸が太めで織るのもはやく、「布になってる！」と体験者はうれしそうでした。横糸の種類はモヘヤやラメのは



どれにしよう...

いったものなど素材も様々。縦糸との配色だけでなく、素材によってどんな表情が出るのかもさおり織の醍醐味です。

自分が織っている時は必死なので、人が織るのを見て「この色も合うわね」と感想を言い合うのもまた楽しそうでした。ボランティアさんが横について説明をしてくれますが、織っている最中に話に花が咲くと「次は右だっけ？左だっけ？」とわからなくなってしまうことも。



横糸で布の表情が変わります



緑と茶の模様が入りました

こうして一段一段丁寧に織られたさおり織は、とてもカラフルでおもしろいものになっていました。親子で参加された若い女性は着物の着付を習っていて、さまざまな織物にも興味を持つようになったそうです。「染よりも織がすき」と話し、糸がたわみやすい布の耳の部分にも気を配ったり、模様をいれる織り方にも挑戦したりしていました。

今回のはた織体験では、ボランティアさんたちの織機に縦糸をとおす作業もおこなわれました。ふだんの体験では、すでに縦糸が通った状態から始めるので織り始める前の作業はなかなか見ることはできません。またの機会に、その様子をお伝えします。